

東日本大震災復興支援 被災地支援ボランティアに参加される方へ

ボランティアの活動内容

被災地の活動は様々です。メディアからの情報だけでイメージしていくと「思っていたことと違っていた」こともありえます。ニーズは刻々と変化し、地域によっても活動内容が異なります。

* 活動一例

- ・ ニーズ調査
- ・ 瓦礫撤去、家屋の解体、泥かき
- ・ 草刈、清掃、植樹
- ・ 物資の仕分け、配付
- ・ 事務作業、メディア配信作業
- ・ 写真整理
- ・ 祭りの手伝い
- ・ 高齢者施設への慰問
- ・ 子どもの遊び相手

活動先の探し方

●大学のボランティアセンター

各キャンパスのボランティアセンターには多数のボランティアに関する情報があります。被災地に行かなくても、家や学校の近くでできるボランティア活動もあります。また、作業内容など専門的知識を要するを経験してから現地に向かうことも可能です。被災地で活動する多くのNPOが専門性をもつ団体です。日頃から活動に参加して、理解を深めてから向かうといいでしょう。

●災害ボランティアセンター

被災地での直接的な活動の多くは、地域災害ボランティアセンターで受付をします。地域によって活動内容と準備品が異なりますので、HPなどで確認のうえ、事前に把握しましょう。学校や自宅の近くのボランティアセンターや社会福祉協議会で募集をしていることもあります。

●ボランティア団体の企画

既存のボランティア団体の多くが震災復興支援に取り組んでいます。団体の活動をよく理解して、安心できる活動に参加しましょう。

●旅行会社のツアー

交通手段と地域観光や宿泊先のついたセットツアーがあります。割高に感じることもありますが、経済支援も復興の要素です。

ボランティアをしようと思ったら

1. 活動場所の情報を集める

交通の便、宿泊施設の確保、飲食物の入手先など、自分の無理のない範囲で安心して活動できる場所か、把握しましょう。

2. 自分に合った活動先を選ぶ

NPOや財団などの様々な団体が活動しています。保険代の他、入会金や年会費が必要な場合もあります。その団体のこれまでの活動や趣旨を理解し、参加団体の説明に従ってください。団体に参加しての活動であっても、問題があった場合は自己責任です。

3. 保護者の了解を得る

活動先によっては携帯電話の電波の届かない地区もあります。まだ余震もあり、衛生面の悪化もみられます。ご家庭へ活動内容を伝え、活動の承諾を得て参加するようにしましょう。

4. 必要なものを自分で用意する

用意するものは、活動内容によって違います。事前研修や活動先のHPで確認するなどして、準備しましょう。ボランティア先や団体などで貸し出ししているものもあります。あらかじめ、確認してから現地に向かってください。また、保険証のコピーや身分証明書は必ず持ってください。

5. 保険に加入

ボランティア保険の他、もしもに備えて保険に加入してください。活動に義務付けしている場合もあります。ボランティア保険はお近くの社会福祉協議会で加入してから被災地に向かうほうが、受付がスムーズです。

6. 体調や精神的なことは無理しない

被災地ボランティアを経験して心理的影響を受けていることが多く報告されています。不安なときは、周囲に励まされても、無理せず活動をあきらめることも大切です。

7. 事前研修に参加

活動の経験者から話を聞いたり、団体の事前研修に参加するなどして、心構えをもって向かいましょう。

申し込みの際は

被災地に到着したら、災害ボランティアセンターなどで受付をします。受付後はボランティア登録をし、名札やピブスなどの貸し出しを受け、活動先を聞いた後、現場に向かいます。

●受付では、何ができるか、何ができないか、はっきり伝えましょう。

活動を紹介されたものの、自分の体力や知識に自信がないと思うこともあります。無理せず受付の方に伝えてください。被災地のボランティア受付は多くの業務をこなしています。受付はすみやかに行ってください。

●身分証や保険の有無を提示しましょう。

受付では個人情報の提示を拒まず、身元を明らかにして地域の方と接してください。

●現地のリーダーの指示に従いましょう。

その地域のルールや積み重ねた経験をもとにリーダーは指示を出しています。自分の考えと違っていても、指示に従ってください。

ボランティア保険とは

参加する団体や企画によって保険の種類と加入有無はまちまちです。申し込み際に注意して、加入してください。

社会福祉協議会や現地の災害ボランティアセンターでボランティアの紹介を受ける活動は自宅や学校の近くの社会福祉協議会や地域ボランティアセンター等で、ボランティア保険天災プランに加入してから現地に向かうことをお勧めします。ボランティア保険は年度締め切りが3月31日です。

ボランティア保険に加入していても、ボランティア活動中の事故や怪我は自己責任です。気をつけていても誤って物を壊すこともあります。もしもの時に備えて、自分が加入している保険について、活動内容が適応するのか把握しておきましょう。

ボランティア活動中は

1. 集合、休憩の時間を守り、周囲の人に迷惑のかからないよう行動する。
2. 服装や持ち物の点検をし、活動先に忘れ物のないよう気をつける。
3. 休憩時はトイレに立ち寄り、水分補給を忘れずにする。
4. 無断で写真撮影やビデオ撮影をしない。
5. 釘やガラス片等での事故を防ぐため、危険物を確認してから作業する。
6. 被災された方と接するときは、発言や行動に配慮し、安易な気休めを言わない。

被災地ボランティアが終わったら

ボランティアに関心のある人や、家族に感じたことや心境を話し、心の整理をしましょう。

通常の生活が取り戻せない、心のもやもやがとれない時は、学生相談室やボランティアセンターに相談してください。

帰ってきてから活動を多くの人に伝えたい。同じような思いを参加者の多くが抱いています。これからの活動に関しても、ボランティアセンターと一緒に考えていきましょう。

活動経験者からのアドバイス

- ・釘やガラスが多く落ちています。安全靴を履いていて助かりました。
- ・携帯電話は濡れと埃から守るためにビニール袋にいれました。
- ・災害ボランティアセンターの情報は毎日変わるので要チェックです。
- ・車がないと移動に不便です。
- ・その地域の食材や物産品を使って喜ばれた。
- ・軍手より皮手袋がおすすめ。
- ・帰ってきたら経験話を周囲に話したくなります。
- ・紙とペンとマスクとタオルは必須です。

明治大学ボランティアセンター

<http://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/index.html>